



### 東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2015～16年度テーマ

## 仲間の輪を広げ、楽しみの環を広げよう

### 第 244 回例会

日 時:平成 28 年 2 月 11 日 (木) 12:30～14:30  
場 所:八王子エルシィ  
出席者: 53 名 出席率 :79.1 %  
(会員総数 68 名 欠席 14 名 休会 1 名)

#### 会食・ハッピーコイン披露

会食に入り、岩島副会長からハッピーコイン 13 件の披露があった。(4～5 ページに掲載)

#### 1. 司会 荻島例会委員長

配布資料の確認

#### 2. 挨拶 永井会長



皆さんこんにちは。私の散歩コースには、すでに梅の花がきれいに咲いていて春近しを感じさせます。一方風邪を引いている方が多いようで、心配しています。十分気をつけて

いただきたいと思います。

外に出て歩くのは長生きの秘訣のようです。最近野外研修や野外サロンの参加者が減少気味のように思われます。健康保持のためにもぜひご参加いただきますようお願いいたします。

次に今日また仲間が一人増え、喜んでおりますがもうちょっとで 70 名に達しますので、会員の皆様の一層のご支援をよろしく願致します。

#### 3. 新会員のご紹介とご挨拶

紹介者の飯田会員より、一瀬 明(いちのせあきら)新会員が紹介されました。

一瀬氏は同じ八王子というばかりでなく、私の家



と目と鼻の先に、このように素晴らしい方がお住まいになっておられたということなのです。

ある会の旅行会などで一緒にしたこともあり、温厚なお

人柄についてはよく存じておりましたが、こうして高校では 1 年後輩の一瀬氏を紹介できることは私の喜びとするものです。

今後のご活躍を期待いたします。なお、今次学習サロンの開講式の講師をなさる渡辺房男先生とは高校の同級生とのことです。

#### 一瀬 明新会員のご挨拶



過分なご紹介をいただきありがとうございます。

先輩には頭が上がりません。拙宅から見上げると丘の上に飯田会員のお宅があります。

さて、自己紹介ですが、私は山梨県の出身で、今年 6 回目の年男となりました。私の加入が平均年齢を下げるとのことでお恥ずかしいですが、精一杯努力いたします。私の専門は冶金学です。住友金属鉱山に勤務いたしておりましたが、鉄ではなく非鉄金属ですから、山から掘った鉱石を精錬して、銅とかニッケル、さらには金、銀、プラチナといった金属に仕上げる仕事です。

仕事はまことに硬い仕事でしたが、私自身は柔らかいつもりです。そんなに堅くはありません。現役を離れて 7 年になりますが、趣味は、ゴルフや読書のほか、クラシック音楽が好きで、演奏会に出かけてオペラなどを楽しんでおります。

これからは長い間お世話になった地域、社会に少しでも恩返しができたらと頑張ってまいりますのでよろしくお願いいたします。

#### 4. バースデーカード贈呈

1月および2月生まれの方に、池田会員お手製のバースデーカードが会長から贈られました。おめでとうございます。

(1月生れの方々)



左より佐々木秀勝、下山邦夫、大野聖二、寺田昌章、武田洋一郎、河合和郎(敬称略)の各会員(下田泰造、米林伸恭の両会員は欠席)佐々木(秀)会員には、ウエルカムカードが同時に贈呈されました。

(2月生れの方々)

鈴木はるみ、根本洋子会員は欠席のため、バースデーカードの贈呈は行いませんでした。

#### 5. 卓話 タブレットで遊楽

～ひと味違う生活を Do エンジョイ～

武田洋一郎会員



本日の卓話は「タブレットで遊楽」というテーマでお話させていただきます。かつて私は、「プロバスだより」に「パソコンを捨て、町に出よう！」という格好をつけたタイトルの投稿記事を書いたことがあります。これからお話しすることを考えるとお恥ずかしい限りですが、今ではすっかり宗旨替えして、小さなパソコン(=タブレット)を持ち歩いて街に出ている今日この頃です。

12月の例会で新老人の会、牧 壮様の「100歳がはじめた SNS のその後」の話に刺激を受けられた方も多くいらっしゃると思います。高名な日野原重明先生が100歳の時(現在104歳)に、新たな人との繋がりをつくるため、Facebook というソーシャル・ネットワーク・サービスに参加、タブレットを仲間同士でフル活用しているという話にみられるとおり、今やその購入者の6割は60代以上という時代にな

っています。あわせて利用環境も東京オリンピックに向けての屋外での無線LAN環境の整備をはじめ、大きく変わろうとしています。

これからお話ししますタブレットは、皆さんの中で既にお使いの方もおられると思いますが、小型のスマートフォンと違って、サイズが大きく、文字も読みやすいため高齢者にとってはまことに便利な、使い勝手の良い情報端末機器です。今からでも遅すぎません。皆様もタブレットを大人の趣味道具の一つとして活用され、これまでとは一味違った生活を Do エンジョイしてみませんか。

以下、配布の資料「タブレットで遊楽」に沿って概略お話しします。今日は、「卓話」と言うより「卓勉」になりそうです。

まず、使われる言葉について、理解しましょう。

「タブレット」とは、ということですが、錠剤のこととか標札の類などいくつかの意味がありますが、本日は「液晶ディスプレイなどの表示部分にタッチパネルを搭載し指で操作する携帯情報端末の総称」ということで頭に入れておいてください。

それでは携帯情報端末にはどんなものがあるかということ、一つは「スマートフォン」(略称スマホ)で、サイズは4.7インチのものが多く、基本機能は電話ですが、パソコンに近い機能があります。

次が「タブレット端末」で、サイズは7インチ以上のものをいいますが、約10インチの“iPad”が多く利用されています。両者の違いは、電話機能の有無と、大きさということになるでしょう。

もう一つの端末機器は「電子書籍リーダー」で、電子書籍を読むための専用の端末です。通常は書籍を読むものなので、ほとんどはモノクロで、目に優しく、何千冊もの大変な図書量を収納できます。

「OS」とは、Operating System のことで、システム全体を管理するための基本ソフトのことをいいますが、これ以上の細かい点は省略します。

次に、「タブレットを使用するにはどんな環境条件が必要か」ということですが、使用する場所によって差異があります。

① 室内利用の場合には、Wi-Fi ルーターの設置が必要です。一方、②屋外利用の場合は、ポータブル Wi-Fi ルーターが必要です。(代わりにスマホを持っている場合はテザリング機能を利用、公共無線 LAN

がある場合はそれを利用します)。

ここで「**Wi-Fi (ワイ・ファイ)**」とは何のことかということですが、昔、高性能オーディオ装置のことを**Hi-Fi (ハイ・ファイ)**といったことを覚えておいででしょう。その韻を踏んで名づけられたということで特段の意味はないようです。

次に、「**ルーター**」ですが、これは異なるネットワーク同士を相互に接続させるための機器のことです。ここではサーバーに接続された**Wi-Fi 機器**が設置されていれば十分です。

さて、いよいよ「**タブレットの購入**」ということになりますが、その決め手は何でしょうか。まず、① **メモリの大きさ**です。映画などの動画を長時間見るには、**64GB**以上の容量を必要とするもありますが、私たちの普通の使用状況からは**16GB**で十分です。値段は**5万円~7万円**くらいはしますが、皆さんの潤沢な財布の中ならば大丈夫でしょう。そして、併せて② **OSの種類**の選択と、③ **Wi-Fi**の使用の選択ということになります。

購入先としては、国内シェア**43%**を占めている、**iPad**を例にとってみますと、① **Apple Store**で、② **Softbank・docomo**の**iPad**キャンペーンを利用して、③ **量販店**で購入、などがありますが、④「**日経ビジネス**」では電子版を**2年間購読**すると**機器代金は無償**、などといったサービスをしているところもあります。

さて次は、「**タブレットを使いこなすには**」ということですが、基本的な操作方法はどのようにするのでしょうか。細かくは省略しますが、資料にあるとおり、**液晶画面を5つの操作方法**によって**タッチ**して操作します。パソコンのマウスの左クリックにあたる「**タップ**」が基本で、二本の指を離したり近づけたりして画面を**拡大・縮小**する操作、ほか指で多様な操作ができることが**タブレットの特徴**です。

文字を入力するには、パソコンのように① **キーボード入力**が基本です。パソコンと同じ**キー配列**で、かな、ローマ字、絵文字、英語などで入力します。それと② **音声入力**があります。「今日の八王子の天気は」というようなことを、音声で入力して回答を得ることもできます。とても便利な入力方法です。

**iPad**を購入して最初にすべきことは、**初期設定**をきちんとして置くことです。

① 使用する言語やキーボードの設定、② **Wi-Fi**ネットワークの設定、③ **Apple ID**の新規作成、ほかに**Google**に登録してアカウントを取得しておくことと色々なサービスを受けることができ便利ですが、初期設定は間違えるといけませんから、習熟した方に手伝っていただくことをお勧めします。

いよいよ最後のというか、これが、今日のお話のメインなのですが、「**iPad**を使って、**遊楽の時間を過ごすには**」の解説に移ります。

読書、音楽、カラオケ、写真、動画、ゲームなどの趣味分野から、生活に役立つ情報として地図、乗り換え案内、ラジオ、テレビ、ショッピング、グルメ、スカイプほか盛りたくさんのメニューなどがあります。これらは、提供されている**有料・無料**の**アプリケーション・ソフト**をダウンロードすることにより使用できます。

それに、コミュニケーション手段としての**メール**、**Facebook**、**LINE**、**Twitter**の各機能は、使えば使うほど深みを増す機能です。その深さというか多様さは、**iPad**を使って初めて理解されるということがいえそうです。

このうち、**Facebook**については、日野原先生が活用なさっていることは先にも述べたとおりです。皆さんも**Facebook**で仲間を作っておくと、様々な情報の共有ができ、生活の幅が広がり、いろいろと便利です。私も先般、牧さんの書かれた本を購入した際、同氏に**Facebook**で友達申請してつながりを持ちました。

最後に、日野原先生の今日**2月11日**の**Facebook**メッセージ「自分の体を観察し、記録してください」をお伝えして、本日のお話を終りとします。

## 6. 幹事報告 田中幹事

武田さんの卓話興味深く聞かせていただきました。ぜひこの機会に**タブレット**を楽しむ一歩を踏み出そうではありませんか。

・かねてよりの懸案であった次のテーマについて、今後の在り方を検討していくプロジェクトの立ち上げが先般の理事会で決まりました。

① 「ホームページ」(リーダー 馬場理事)

② 「生涯学習サロン」(リーダー 山口理事、寺田前理事)

・「今日は何の日」ですが、本日は「建国の日」です。戦前は紀元節でした。

また、この日はトーマス・エジソンの誕生日です。1847年オハイオ州に生まれ、84歳で没するまでに蓄音機、白熱灯、映画等、生涯で1,300もの特許を取りました。彼の言葉に「天才は1%の靈感と99%の汗である」があります。

誕生花は白いフリージア 花言葉は「無邪気・あどけなさ」です。

## 7. 委員会活動報告

### (1) 例会委員会 荻島委員長

第244回例会につきましては頭書のとおりです。

### (2) 情報委員会 土井俊雄委員長

「プロバスだより243号」をお届けいたしました。今回の編集は山崎会員によるものです。今回は懇親会もありご苦労されました。

先般、ホームページに20周年記念誌を掲載いたしましたのでお知らせいたします。

### (3) 会員委員会 馬場委員長

本日、一瀬明氏を新会員としてお迎えできたこと心よりお喜びいたします。会員数はこれで68名となりましたが、さらに増員できればと考えていますので、なお引き続き「一人一推」運動をよろしく願います。

### (4) 研修委員会 戸田委員長

卓話の今後の予定につきましては、3月は橋本会員、4月は塩澤会員にお願いしてあります。

### (5) 地域奉仕委員会 山口委員長

今月25日から、いよいよ「生涯学習サロン」が始まります。今回の一般参加者は、新規の方15名を含め、85名の方々が参加の予定であります。

会員のサロン受講票をお配りしましたが、聴講希望テーマ表未提出の方は、本日中に提出願います。

野外サロンの参加の有無については、本日中、開講式または3月10日までにご記入をお願いします。

サロンでの話し手、司会者ほか該当者にお問い合わせ事項を配布しました。ご協力よろしく。

### (6) 交流担当 浅川理事

東日本のプロバスクラブ交流の場の設営について検討中です。昨年来、当クラブ、日野、埼玉浮き城各プロバスクラブの記念事業等のため、延期してお

りましたが、開催に向け協議を開始しました。

### (7) 八王子「宇宙の学校」 下山リーダー

宇宙の学校については、6月から規模、時期ともに昨年並みの状況でスタート。新年度はプロバスクラブ以外からのボランティアの募集が鍵。

## 8. 同好会活動報告

麻雀：荻島会員 定例会を開催します。

美術：池田会員

間近の日時で恐縮ですが、来たる2月16日、東京国立博物館で開催されている「始皇帝と大兵馬俑」特別展の美術鑑賞会を開催します。中国大陸に統一王朝を打ち立てた秦の始皇帝の陵墓の近くに埋められていた「兵馬俑」は考古学上20世紀最大の発見といわれ、この展覧会では兵馬俑の典型と始皇帝にまつわる貴重な文物を一堂に紹介するものです。

カラオケ：杉山会員

関係者のボックスにお知らせを入れてあります。

## 9. プロバス賛歌斉唱



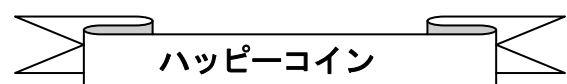
### 10. 閉会の挨拶 岩島副会長

本日新会員として一瀬明氏をお迎えいたしました。まことに喜ばしいことと存じます。川柳に「スマートフォン ファッションショーかと親に聞く」というのがありましたが、本日は、武田会員より「タブレット」についての卓話があり、まことに興味深く聴かせていただきました。

私はパソコンを使ってですが、ドイツにいる孫と連日、スカイプを使っておしゃべりをしています。無償かつ映像付きで、まことに便利です。iPadならさらに……ということなのでしょうね。

幹事報告にあった二つのプロジェクト立ち上げに期待します。いずれも解決すべき懸案事項ですから。

また生涯学習サロンの一般参加者85名にホッとしました。さらにプラスされればと願っています。



◆今日は入会してはじめて新入会員の一瀬明さんを紹介できますことを大変うれしく思います。

今年2月25日から学習サロン開講。皆様の御協力をお願いします。特に野外サロンへのご参加をよろしくをお願いします。 飯田富美子

◆本日より八王子プロバスクラブの会員に入れていただきました。よろしくお願ひ致します。

一瀬 明

◆今月も新入会員一瀬明氏をお迎えすることができました。ご活躍を期待して。 田中 信昭

◆本年度4人目の新会員をお迎えしました。いずれもお若く、4人の平均年齢は69歳。当クラブに若い息吹が加わりハッピーです。 馬場 征彦

◆梅や寒桜の便りが全国から集まってくる。この季節が春の先がけとしてうれしい。 土井 俊雄

◆毎年0.3年ずつ上がってきている平均寿命にやっと追いついた。メデタシ メデタシ。あとはせかせかせずに、ゆったり歩いていこう。 佐々木 正

◆手術から一年間、異常なく過ごせました。執刀医から手を差しのべられ、感謝の意を込めて固く握りかえしました。ラッキーな1年でした。

内山 雅之

◆今皆様とともに、元気に活躍できることに感謝、感謝。 土井 俊玄

◆無事に75歳をクリアしました。いよいよ後期高齢者。百歳まで25年、まだまだ楽しめます!!

武田洋一郎

◆暮れの25日、熱海で携帯を落としました。2日間追跡して28日無事に手元に戻りました。昨年の1年間の悪運を落とし新年の強運を感じました。そのせいか新年の麻雀サークルで、久しぶりの優勝ができました。この運が長く続きますように……。

今年もバレンタインチョコをどうぞ。立川富美代  
◆今月末から10日ほどアフリカ、モロッコの旅に行つて来ます。来月の例会には間に合います。

野口 浩平

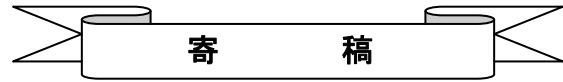
◆平成28年1月24日は私にとってハッピーな日である。10年ぶりの日本出身力士の優勝である。

荻島 靖久

◆サッカー U-23 日本代表 アジア王者として五輪へ。決勝戦では粘り強く逆転勝ち・優勝!

リオデジャネイロ五輪でもこの勢いで頑張れ!

岩島 寛



あれから一年

大高 秀夫会員

愛犬ノエルが黄泉の国に旅立ってから1年が過ぎた。早いものと言いたいところだがこの1年はかなり長かったような気がしてならない。朝の散歩に始まって食事・トイレの世話等、1日のタイム・スケジュールがノエルを中心に組まれていたが、突然この体制が崩れてしまい戸惑っていたので長く感じられたのかも知れない。

火葬を済ませ骨壺を抱いて帰った時、確かにいなくなったのだと実感したが、2週間後の合同葬儀に参列して読経の間に“大高家愛犬ノエルの精霊”という僧侶の声を聞いた時、これで成仏してくれたかなと少しは安心したが、私の人生最大の衝撃は簡単に整理することができず、そこで考え付いたのがその寂しさや悲しみの思いのたけをひたすらノートに向かつて書き続けることだった。またたく間に大学ノート1冊が1ヵ月で終わってしまった。

その結果、楽しい日々を一緒に過ごしてくれた感謝の気持ちが湧き上がってきて、『天国で待ってるよ』というメッセージをもらったような気がして、あれほど強烈だった喪失感をかなり癒してくれる効果があったようだ。

そんなある日、本屋に行つていつものようにペットのコーナーをみていると《犬の気持ちがもっとわかる本》が目にとまった。表紙の帯の《飼い主を愛し幸せにすること、それが僕たちのすべて》という文字を見てすぐ手に取った。著者は動物病院の高江須薫院長で沢山の動物を見ているうちに、動物と対話ができるようになり、一般の診察はやめて、現在はアニマルコミュニケーターとしてカウンセリングを専門に活躍しているそうです。早速読んでみてすぐに思い出したのが、合同葬儀の時僧侶の話の中に、これだけ沢山のペットの中でどうしてこの仔だったのだろうかということを、改めて考えてみましょうと。その時は深く考えてもみななかったがこの本を読んで『目が合ってしまったこの仔に決めましたという話



をよく聞きますが、出会ったからにはその犬の望んだ体験をかなえられる飼い主であるはずで、それは貴方を幸せにすること、そしてこの人なら私を幸せにしてくれると信じて、貴方を飼い主として決めました』

つまり私が 15 年前ペットショップで目線があった時、私はノエルに選ばれたということなのです。そして深い絆で結ばれて楽しい幸せな日々を過ごすことが出来たということになるわけです。

この本の中で気になったところは、咬みぐせや無駄吠えとか問題行動がある犬たちは、過去世の記憶がトラウマや不安になっているということです。犬たちの輪廻転生はとても早く 8 年くらいで再生転生してくるようで、過去の飼い主との出来事が大きく影響しているということでした。

まだまだ書きたいことは沢山ありますが、最後の頁に『愛犬が亡くなったら、今まで一緒に暮らすことが出来てどれほど幸せだったか、そしてどれほど素晴らしい存在だったかを感謝してください。そうすれば愛犬は、自分は家族の役に立った、自分は役割を十分に果たしたと心から安心して次の世界に進むことができます。愛情を注いでともにいてくれた飼い主さんを犬たちは決して忘れることはありません』と結んであった。

ノエルと一緒にこの本を読んでいたら良かったのにも思ったが、私が買って来た 10 日ほど前に初版発行されたという日付が書かれていた。

それから半年くらい経ってから、今度は古本屋で 2 冊の本に出会った。その一つは《天使になったペットたち (犬編)》という本で、愛犬との別れを全国から寄せられた沢山の投稿の中から 48 篇を選んで編集したもので、3 行の短いものから 3 頁のものまで様々な別れの形があって、何処を読んでも涙なしでは読むことが出来なかった。こんな悲しい別れが全国どこにでもあるということは、私だけでは無かったのだと……。

もう一つは著名な作詞家阿久悠著《犬猫太平記》という本で、著者が 30 年間に沢山の犬と猫を飼っていて (犬 3 匹・猫 3 匹を同時に飼っていた時期もある) 夫々について様々な出来事を面白く、又じんと感動するような文章はとても読みごたえがあった。その中で秋田犬の小太郎ちゃんが亡くなった時に

『犬という生き物が死んだことはただ小さな生命の消滅ということではない。ともに生きた一匹の犬が、どのような時代に共存共生していたのか思い出し、確認することは彼らへの敬意でもある』として[あとがき]の結びの『僕は多くの犬たち猫たちと暮らしたがペットと思ったことは一度もない。またお犬様お猫様として扱った事もない。ただ師であり友であった。そして僕にいっぱい愛をくれた』という言葉に感動した。

思いつくままに書いてきたが、途中から 3 冊の本を紹介するようなことになってしまったが、私としては全く同感で自分の思っていたこと、書きたかったことの全てがこれらの本の中に詰まっていたのでこんな形になってしまった。

あれから 1 年が過ぎたがノエルにももらった健康を維持するために朝の散歩は 1 日も休まず続けている。ノエルとの約束を反故にすることは出来ないし、今も一緒にいる積りで歩いている。ここでこんなことをしたとか、あんなことがあったとか、色々思い出しながら楽しく歩いている。ノエルに出会ったということが私の定年後の生活をこんなにも有意義な人生にしてくれて、沢山の楽しさと癒しと愛を貰った。これは生涯忘れられない大切な財産だと思うし、これらのことを思い出しながら残り少ない余生を過ごさせて頂ける幸せは【終わりよければすべてよし】の諺のように、素晴らしい人生となることだろう。

沢山の思い出を残してくれたノエルになんと言っただけで伝えたいだろうと常々考えているのだがなかなか適当な言葉が出てこない。やっぱりこれしかないのかな。“ありがとう・ノエル”

どこでだったか【思い出すということは、呼び戻すこと】こんな言葉を聞いたことがあるが、君のことはいつでも何処でも思い出してるよ。だからいつもノエルと一緒にだから大丈夫だよ。

改めてもう一度“ありがとう・ノエル”

## 胃カメラの開発

寺田 昌章会員

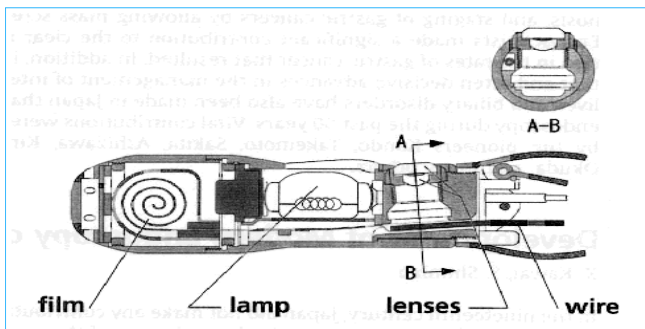
胃カメラの開発物語は、吉村昭氏の「光る壁画」(新潮社)と云う本に書かれている。また NHK の「プロジェクト X」でも紹介された。紀元前から体内(肛門、膣等)を覗く試みがあっ

た。1850年頃に体外で光るローソクの光を集めて体内に送り、先端に設けたレンズ系で像を伝え、体外の拡大鏡で観察をする尿道・膀胱鏡（外観は金属の管で構成されているので硬性鏡と呼ばれる）が試された。その後、呑刀師が刀を呑むようにして胃内を観察する胃鏡が試されたが、何れも実用化はされなかった。エジソンによる電球の発明（1879年）以降、ローソクの光に代わって先端にランプを配置した尿道・膀胱鏡が、1897年に開発され実用化された。真直でも挿入できる尿道・膀胱とは異なり、曲がらないと挿入が困難な胃では、患者に苦痛を与えるため何とか出来ないのかということ、複数の球状レンズ（焦点距離が短いので少し曲がっても像が伝わる）を利用し、先端がわずかに曲がる軟性胃鏡も試みられたが、胃の中を観察するには不十分で実用化されなかった。日本人には胃の病気が多いこともあり、柔らかい管をもつ超小型カメラで胃の中を撮影できないかということ、戦後間もない時期に東大分院外科副手・宇治達郎先生が、カメラメーカーであるオリンパスに話を持ち込んだ。杉浦睦夫部長が応対し、深海正治技師が検討を始めた。当初超小型カメラを、食道の最大直径14ミリ以下にすることは不可能で絶望視された。しかしある時、胃内部は真っ暗だから、カメラにあるシャッターが不要であることに気付き、わずかな光が見えてきた。

そうなればランプ光、レンズ、フィルムを超小型にすれば良いということで構想が進んだ。先生からの注文は太さ12~13ミリ、胃内を見るために先端を曲げられる必要があるということだった。超小型レンズは光学メーカーなので比較的容易に考えられた。フィルムは35ミリフィルムを5~6ミリ幅で裁断すれば可能性があるし、そのフィルムを超小型パトローネ（光を遮断するフィルムケース）に入れることも可能性が見えてきた。問題は肉厚が薄くて潰れない管をどうやって作るかという事と、ランプの光を現段階で存在するランプ光の何倍も明るいフラッシュを、30回以上光らせる物が出来るかという事と、フィルムをどうやって巻き上げるかという事や、先端を曲げる方法等であった。

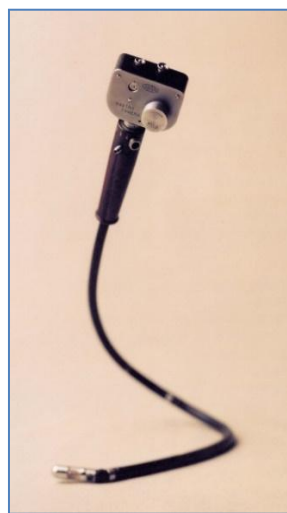
構想から各種の試みがなされた。管は肉厚の薄い金属帯板を螺旋状に巻き、その上に金属網を被せ、一番外側に薄いチューブを被せる構成にした。金属

の螺旋管が潰れを防ぎ、金属網が伸びを防ぎ、薄いチューブが捩れ防止と防水の役割を果たした。これにより薄くて曲り易く丈夫な管が出来た。先端を曲げる方法は、竹の筒を連ねたオモチャの蛇にヒントを得た。ランプの光は明るさが実現されても、数回で切れてしまい、ランプのフィラメントや封じ込めるガスの改良が、ランプメーカーで何十回と繰り返



され、最も困難を極めた。

実験機が出来る度に、犬を使って動物実験が行われた。胃の中をどうやって撮影するか各種の試みがなされた。胃の中に水を満たして撮影する方法は、胃酸による水の濁りや、残留している食物で良い写真が撮れなかったり、ランプが数回で切れたり、水漏れで写真がダメになったり、不具合の対策に迫られた。最終的に胃の中に空気を送り込み、胃を膨ら



ませて空間を作る事になった。

胃内全体が撮影可能となる操作方法の試行錯誤も行われた。ある時フラッシュすると犬のお腹が光ることに気付き、部屋を暗くするとその様子が更によく分かった。カメラの先端が胃の壁に近づきすぎると、強い光（赤玉）となって撮影できない事も分かってきた。後の時代になって、その必要がないのに部屋を暗くする習慣が今も残っている施設もある。こうした試みの結果1950年（昭和25年）胃カメラ1号機が完成し、学会発表が行われた。胃カメラ「生みの親」である宇治先生はこの成果をまとめて博士号をとった後、開業のため東大分院を去った。本来ならばこれで終わりとなるところであった。しかし東大第一内科の田坂定孝教授が、この胃カメラを広めようと、日本

の有力大学を誘って、メーカーとともに胃カメラ研究会（現在の内視鏡推進連絡会）を発足させ、胃カメラの操作方法、診断方法、胃カメラの故障、改良要望などを検討し続けて、胃カメラによる胃の集団検診へと発展させ、1959年日本胃カメラ学会（現日本消化器内視鏡学会）を発足させた。そして胃カメラ写真画像の研究で胃がん診断学、胃がんの形態的分類学などを確立し、当時医学で後進国であった日本が、世界の先端に立てるようになった。後年この功績を讃えて、渋谷区に「田坂クリニック」が設立された。田坂先生が胃カメラの「育ての親」と云われる所以である。

事業としてみると胃カメラは赤字続きでお荷物になっていたが、医師の強い情熱でメーカーは辞めるにやめられない状況が続いていたが、胃カメラ発売後10年でようやく黒字になった。しかし胃カメラは、特殊な現象が必須であり、写真を撮るだけでは世界には通用しなかった。内視鏡が世界に広がったのは、この後のイメージガイドファイバー（屈折率の異なる髪の毛よりも細いガラス繊維束の両端を規則的に束ねて、像を伝送できる物）を用いたファイバースコープの出現以降となる。

ファイバースコープの開発（この頃筆者は入社）と、生検（内視鏡を通して体内の組織をとって顕微鏡で確定診断をする）が出来るようになり、世界へ広がった。確定診断が出来ない胃カメラ時代は、結果的には良性で癌ではなかったのだが、疑わしきは手術ということで胃を切除されたこともあった。

生検や内視鏡を通して各種の処置・治療（ポリプ切除や、胆石除去、癌部の粘膜切除等）が出来るようになり、入院・手術に比べて格段に医療費が安くなる内視鏡は、医療に不可欠な医療機器になってゆくが、この話は別の機会とする。

胃カメラを含む内視鏡は体内へ挿入する為、太さに制限があり、二重安全は盛り込めないのが故障は多くなる。胃カメラの最大の功績は、故障の多さ故2本組みで、高い価格付けをして販売したことである。その後故障が少なくなり、1本で販売できるようになっても、高い価格のまま販売できたことと、故障修理を有料化（この頃通常の医療器は無償で修理していた）したことである。修理部門は現在でも利益創出の柱の一つとなっている。

## 俳句同好会便り

私の一句～2月句会から 河合 和郎

俳句同好会がスタートして50回の句会を重ねた。これからも“句楽”を共にする仲間でありたい。

何もなくて何もしない梅見酒 立川富美代

何とも幸せな一日。酒の味も一入であろう。長い人生にはこんな一日があってもいいのでは。

雪かきは車庫の前だけ若夫婦 馬場 征彦

「今どきの若い者は」と言う口上は紀元前からあったとか。風刺が効いていて頷ける一句。

鬼は外福は内なる大吟醸 渋谷 文雄

豆まきの決め台詞に酒の楽しみを合わせた。アイデア賞もの。俳諧味たっぷりとうまくまとめた。

薬てふ寒九の水を知らず飲む 東山 榮

寒九の水は服薬に用いると特効があるとされる。あの喉越しの冴えた味には頷けるものがある。

初場所や綺麗どころの澄まし顔 石田 文彦

テレビ中継でよく見かける光景。取り組みの合間は嫌でも目に入る。これも楽しみの一つか。

蕊震ふ梅や一輪夢の中 山形 忠顕

対象をよく観察している。繊細かつロマンチックな一句。作者の新境地が見て取れる。

新しき雪ふつくらと庭明かり 池田ときえ

高点句。新雪の景を詠んで秀逸。「雪ふつくらと」の措辞で、新雪の柔らかさがうまく表現できた。

侘助や良寛の軸従へて 田中 信昭

高点句。お茶室の景と解したい。視点を変えてまとめたところに工夫の跡が。良寛さまも苦笑いか。

凜とした梅一輪に背を正す 飯田富美子

一輪の梅の花が咲いた。その凛とした佇まいに思わず背筋を正した。端正な梅の美しさが詠めた。

人よりも怖い鬼なし鬼やらひ 河合 和郎

最近、「親殺し」「子殺し」などなど悲惨な事件が後を絶たない。こんな句は作りたくないのだが。

### 編集後記

2月の例会は、珍しい巡り合わせとなり、休日の建国の日に当たりましたが、会員各位の日程調整により滞りなくすめられました。初めての編集作業何とか終わりました。

情報委員会・佐々木 正